

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.4.8

No. 2

厳しかった昨年度の就職戦線実態

昨年度の就職戦線は最近にない厳しい状況であったことは色々な機会に聞いていると思います。ではどう厳しかったのか本校の具体的なことを少し紹介しましょう。



昨年度の進路先の内訳は下記表のようです。現在まだ進路が決まっていない生徒が工業科、普通科で各1名ずついます。残りの生徒は全員決まったのだからそれで良かったと思うかもしれませんが、しかし実態は、地元の企業をはじめ多くの人々のお力添えによりかろうじて、滑り込みセーフをしたという状況です。現実はずっと壮絶なものでありました。

9月から始まった一次試験では、就職希望者の半数の27人が不合格となりました。昨年までの一次試験での不合格者はせいぜい5,6人でした。この他に書類を出した時点で、書類審査で受験も出来ず不合格となった生徒が2社で、数人いました。

その後求人してくれる企業が12月初めまでの2ヶ月間ほとんど無く、進学に切り替えた生徒が5人いました。その後少し求人が出てても本校の生徒は、受験すれども皆落とされ、他校の生徒に次々ととられてしまいました。一人で2回以上不合格となった生徒は10人近くいました。最初工場の見学に行った際にダメといわれ、次の試験で不合格となり、大学進学に切り替え不合格となり、その後やっと就職出来た生徒もいました。何回も不合格となり落ち込み、就職を断念し「ニートでいいや」と言い出した生徒もいます。

1月中旬以降に進学希望の合格者2名が経済的理由により、もう一人看護系進学希望者が中々合格できず、この3名が急遽就職希望に変わりました。求人が少ない中でまた係として頭が痛い事態となりました。1月の末には8人くらいがまだ就職が決まらず、このまま職が決まらず卒業式を迎えるのではとやきもきしました。卒業式の数日前にようやくあと1名を残すところまでこぎ着けました。しかしその後内定辞退をする生徒も出ました。

卒業式後、3月25日になり、公務員関係を希望し2次試験まで合格していましたが空きが無く、採用通知が来ないため、急遽一般企業の職を探し、つい数日前の4月に入ってようやく地元の企業の内定をもらった生徒もいました。

職の決まらない当事者にしてみれば、友人は次々に決まり、いつまでも残されていく自分の姿にどれほど惨めな思いをしていたかしのれないでしょう。やっとの思いで探した求人が出て、ちっとも合格してこない状況に係として歯がゆさを感じるばかりでした。

係として、今年もこんな思いをしたくありません。あなた自身が、あとに取り残される一人にならないためにも、気持ちを引き締め、是非ともしっかり基礎学力をつけ、日々の生活もきちんとするよう心がけて欲しいものです。



内訳	科	工業科	普通科	定時制	合計	比率
就職	伊那管内	19	28	1	48	54.5%
	県内	3	2		5	
	県外		1	1	2	
	小計	22	31	2	55	
進学	4年制大学	2	4	2	8	40.6%
	短期大学	1	6		7	
	専門学校	10	13		23	
	技術専門学校		3		3	
	小計	13	26	2	41	
その他(家事等)		1	2	2	5	5.0%
合計		36	59	6	101	100.0%